自立支援事業所　ベトサダニュース

平成27年5月1日（金）　発行

ベトサダニュース

NPO法人
自立支援事業所ベトサダ
〒001-0021
札幌市北区北21条西2丁目
1番3号

TEL　011-716-5130
FAX　011-708-7117

http://www.npo-bethesda.com
mail: office@npo-bethesda.com

代表より挨拶

北区２４条辺りのビルのむこうに、鯉のぼりが五月の風におよいでいます。生活困窮者自立支援法が動きだしています。

そして、手さぐり状態の支援がはじまりましたが、行政も支援団体の側からも同じのようです。

社会の雇用の形で「派遣」を使ってフォロウするのは、あたりまえになり、短い不安定な就労で社会に居場所を無くす人、は多く存在しこの生活困窮者自立支援法で、再び派遣就労につながる人たちが増えそうです。

路上をやめる人や、生活が困窮している方が話されることばから、「わたしたちの社会はどういうものか」を考えることができます。

今、動いている福祉政策で、社会は姿をかえていくのかも知れません。

貧困になればなるほど、疲弊感が人の尊厳をつぶします。

わたしたちは、困っている人を内側から理解し彼らを大事にし、互いに認め合っての活動をつづけていきたいです、のでご支援をお願いします。

代表　眞鍋

入荘者の声

私は今年の冬にベトサダに入荘しました。ギャンブルに夢中になりお金を使い果たしてしまい、家賃も払えなくなり、やがて食べる物も底を尽き、ついに部屋を出され路上生活をするに至りました。

再建を目指して就職活動をしましたが、家が無くてはどこも雇ってくれません。寒い北海道の冬の中でも、厳冬期の二月は、もう自分では精神的にも肉体的にも限界となり、ネットでベトサダを知り、相談しました。

そして入荘出来ることになり、食事や入浴、暖かい部屋の暖かい布団で寝させて頂きました。その夜、心から【ありがたみ】という言葉を痛感しました。

更に、住所を得た事により、就職活動も始められ、仕事に就く事が出来ました。生活のリズムを取り戻し目標も設定し、それを達成すべく頑張る事が出来た今、清々しい気持ちで自分の人生の続きを歩いて行けそうです。

どれを思い返しても、ベトサダの存在があったからこそ、今の自分があります。そして人間の営みに必要な色々な事を、改めて思い起こさせてくれました。

今はベトサダと出会えて本当に良かったと思うと共に、代表をはじめスタッフの方々にお世話になりました事を感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからは自分の人生を間違える事無く、何かあった時には、ベトサダに居た時の事を思い出し、頑張って行くと共に、自分が出来る範囲で困っている人を助けていけたらと思っています。

今年度、初のゴミ拾いボランティア
雪に隠れていたゴミがたくさん！
町の緑が鮮やかになった朝です

「生活困窮者自立支援制度に関する地域シンポジウム」及び「自立相談支援機関の運営と相談支援に関する研修会」に参加しました。今後の活動の指針となる勉強をさせていただきました。TVクルーもいらしていました。【H27・4・1～4・2】

事務局長より

平成二十七年度事業もスタートしました。今年度より周知の通り札幌市の委託事業で行っています。手探りの状態でスタートしましたが、週一回の**札幌一時生活支援協議会(通称「JOIN」)**の支援調整会議等を行い、支援対象者のアセスメント、支援プラン等の報告、帳票のつけ方、ケーススタディーなどを行い、より支援対象者に適した支援をする為の話し合いをしています。**今年度の成果により来年度以降のあり方が評価及び、見直しをされると思います。**

平成二十六年度事業の最終報告ですが、平成二十七年三月三十一日現在、ベトサダ荘では二十名の人が自立に向け生活しています。

緊急シェルター対応及び、自立支援者数は**年間二百八十名が利用しました。**期間の長短に関わらず支援希望者は後を絶ちません。また中間就労を受けた人は十四名になり二名が自立をし、四名がその場に就職し、一名は無断退去し、居なくなりました。七名は引き続き中間就労継続中です。中間就労等の効力に由る事もあり、総利用者の内、**実質自立した人は百十名になります。**若年層が多くなったという事も有りますが、早期就労を目指し、年間プラン(長期、短期)を立て実行し、期間内での貯蓄が出来ていたからだと思います。

継続的伴走型支援により個々と向き合い、状況に応じた支援が出来たと思います。総利用者の残った百七十名に関して、百五名は関連施設(病院等)に移行をし、生活保護、障害手帳の申請を行いました。残った六十五名中五名は再度収監され三十五名は残念ながら無断退荘で行方不明です。その他五名で**現在利用中は二十名**になります。地域、連携団体等と支援方法を共有し、社会復帰した後も路上生活に戻らない様に絆を強くし継続的伴走型支援を行ってきたと思います。

ベトサダでは生活保護に頼らない支援をしています。全国でも生活保護に頼らない支援事業所はベトサダだけです。入居期間三ヵ月～十二ヵ月の間、生活費全てベトサダが支援します。就労して得た就労報酬は貯蓄に回してもらい入居期間中お金がかからないようにしています。それ故、期間満期時生活費と住居を借りるお金が貯蓄できています。**路上生活をしている古くからの人は、新しい人を見つけると必ず、「ベトサダに行きなさい」と勧めてくれるそうです。**

緊急シェルター、一時預かり等の支援も行いますが、基本的な考え方は、**「一人でも多くの人に自立して社会復帰してもらう」**と云う事です。入居期間中に生活基盤を立て直し、再度生活困窮しないようにする事です。

今期は百十名の方が自立していきました。生活保護で考えるなら、一人当たり月額約十三万円の保護費が掛かります。年間で約百五十六万円になります。**今期百十名の自立を考えれば、月額でも約千四百三十万円の財政削減を行った事になります。**年間で考えれば各人の×月数になります。膨大な効果だと考えられます。一旦生活保護をとっても、その後自立する人が増え再路上しない限り効果は上がって行くと考えられます。**ベトサダを支援して下さる会員様及び、当団体の受け皿になってくれている支援団体様がいてこその成果です。**

ベトサダ入居者の事を理解し、派遣業をしている協力企業は二十五年度に一社、社員寮を作って頂けました。今年度も一社、社員寮を作ってくれた企業が出来ました。少しずつながら生活の場を提供してくれる企業様が増えています。

それにより、ベトサダ入居期間中に実績を重ねれば一般就労で自立しても安定した生活が出来る様になりました。今後も共に協力し合い支援の輪を広げて行きたいと思います。

四月以降も生活保護受給中及び申請中の方、札幌市以外の方等、今まで同様に事業対象外の生活困窮者が相談を及び入居でいらしています。**市の事業で受けられない方を自主事業で受けています。**

事業形態が変わろうとも、ベトサダは今まで同様活動を続けて行きますので、変わりない御支援、応援を宜しくお願い致します！

利用実績・・・280名
（H26年4月～H27年3月末日）

年代別	結果
10代・・・ 4名	自立・・・ 128名
20代・・・63名	生保・・・ 112名
30代・・・61名	不明・・・ 35名
40代・・・74名	逮捕・・・ 6名
50代・・・40名	利用中・・・ 20名
60代・・・31名	
70代・・・ 7名	

※H26年4月以前に入荘していた21名の結果も含む

施設長より

一般的に「住む家が無い」「困窮している」といった状態の人を称して、【ホームレス】と呼んでいますが、厳密にいうと【ホームレス】と【ハウスレス】があると思っています。

【ハウスレス】は文字通りハウス(家)が無い状態。失業等の経済的困窮により、家賃が払えなくなった、住み込みの寮を出された、結果、住まいを失ったというもの。

そして【ホームレス】は、【ハウスレス】の状況にプラスして、親兄弟(親族)、友人、更に社会的な繋がり(役所等)、それらの関係が断絶されている状態であると考えます。

彼が入荘してきたのは三月初旬。ベトサダでは入荘後、心身を休めた後に、スタッフによる今後の方向性についての話し合いをします。ほぼ全員が無一文で入って来ますので、まずは、仕事に関する内容が多いのですが、**「彼の『第一声』**は違っていました(もちろん彼も例外ではなく無一文でしたが)

「親・兄弟を探したいのです」彼はそう言いました。詳しく話を聞くと、十年程前に身勝手で家出をしたが、最近になって妙に安否が気になる。風の噂では、**東日本大震災の頃には福島県にいたらしい**ので。もしかしたら亡くなっているかもしれません……。

副施設長の鈴木が中心となり、**彼の『親探し』**が始まりました。八方手を尽くし、たぶん現住所と思われるものに辿り着き、彼に手紙を出すよう勧めました。

それから約一ヶ月、最初の頃は**『郵便、来ていませんか？』と顔を合わせる度に聞いて来た彼**でしたが、やや諦めムードになっていた頃、**一本の電話が鳴りました。**

『○○の父親ですが』受けたこちらが驚きました。早速、仕事が休みで部屋にいた彼に繋ぎました。たまたま仕事の関係で、両親とも札幌に来ているとのことで、**十年ぶりの親子の再会となったのです。**

親子三人で昼食に出掛け、帰り際に彼を送りがてら事務所でご両親と話ができました。今は仕事の関係で一緒に住むことは難しいけど、常に連絡は取り合って行くとのことでした。大きな体を小さくして、**彼も涙を流していました。**

彼はもう【ホームレス】ではありません。次の親子の再会の時には、自分で借りた部屋に両親を連れて行きたいと語っています。

間もなく札幌も桜が花開きます。そんな時期に相応しい出来事でした。

音更町のI様より、いつも寄附と寄贈ありがとうございます！
みな笑顔で大喜びでした！！

桜も咲き、一雨ごとに、**緑の木々の芽**も鮮やかさを増す季節となりました。いつも変わらぬご支援を下さる皆様に心から感謝申し上げます。

最近気になったニュースの「老人ホーム化する刑務所」で、「自由を手にしても孤立する社会での生活より、仲間がいて衣食住を政府が提供する刑務所生活を選ぶ受刑者も多い」これは一概に高齢者にだけ当てはまる事では無いので、考えさせられるものがありました。一人でもこのような気持ちに至らぬよう、支援活動を頑張ります！

支援者の皆様の温かい心を、しっかり受け止め、責任を持って熱い心で、スタッフ一同、これからも努力をしていきたいと思っています。

お願い

バスタオル・シーツ・枕カバーが不足しております。ご協力お願い致します。

◆年会費・寄附　ご送金先◆

【 ゆうちょ銀行 】
口座番号　02720-1-45798
口座名義　特定非営利活動法人
自立支援事業所　ベトサダ

みなさまの　会費・寄附は
自立を目指す若者の
生きる希望となります